

## 学術情報センターだより第4号（図書館報 YPU Library 第23号）

発行：2017年10月1日

山口県立大学学術情報センター  
電話（内線）5475  
e-mail: gakujo@yamaguchi-pu.ac.jp

山口県立大学図書館  
電話（内線）5791  
e-mail: lib@sakura3.yamaguchi-pu.ac.jp

### 目次

1. 選書ウィークの開催——読みたい本に「あなた」の一票を！	2
2. ウェブ上で「私の本棚」を利用できます。	2
3. ライティングセンターでレポート執筆のコツをつかもう	3
4. 第7回大学図書館学生協働交流シンポジウムに参加しました	4
5. この秋、教員お勧めの1冊	6
6. 図書館の上手な利用方法：先輩たちに図書館の使い方を教えてもらおう！	9
編集後記	9

後期が始まりました。

大学図書館の使い方をもっと知って、今年の秋を、あなたの「読書の秋」にしてみませんか。



## 1. 選書ウィークの開催——読みたい本に「あなた」の一票を！

大学図書館は大学生生活の「知」の拠点。そんな大学図書館の上手な使い方については、ニュースレター最後のページをご覧ください。そんな大学図書館で最も多く借りられる本の一つに、学生自身が選んだ本があります。学生たちが本を選びに大型書店に行く「選書ツアー」が、多くの大学で実施されています。

本学でも選書ツアーを行ってきましたが、今年は「本」のほうが大学にやってきます！

2017年10月から11月まで、南キャンパス図書館・北キャンパス図書室（F棟2階、F204教室の隣）に、大型書店から届いた本が並びます。（詳細な日程は掲示します）

この選書ウィークの間に、あなたが読んでみたい本に投票をしてください。何冊でも投票できます。投票数の多いものから、学生によるリクエスト本として購入し、貸し出しを行います。

この機会に、南キャンパス図書館・北キャンパス図書室にぜひ一度来てみてください。

## 2. ウェブ上で「私の本棚」を利用できます

大学図書館ホームページ上に自分専用のページを持つことができます。

自分専用のページには大きく分けて「マイライブラリ」「私の本棚」「図書予約」があります。

「私の本棚」はあなた専用の資料管理データベースです。まず、大学ホームページから「図書館・センター」→「図書館」へ。右下の「図書館 蔵書検索 OPAC」へ。以下の図1で、右上に「ログイン」とあります。ここをクリックするとログイン画面（図2）になります。

（図1）ログインへ



（図2）ログイン画面

### ログイン

注意事項

操作が終了したら、必ずログアウトしてください。  
ログアウトするには、画面上部の「ログアウト」ボタンをクリックします。  
ログインしてからログアウトするまでの間、システムはこのウィンドウでの操作をあなたによるものと判断して動作します。  
ログアウトしないまま放置すると最悪の場合、あなたの個人情報や他人に漏れたり、あなたの名義で依頼などの操作をされてしまう恐れがあります。

ユーザ名 \*

パスワード \*

ログイン

学生の場合、ユーザー名は「学籍番号」ですが、学生証を再発行した方は「カードNo.」です。パスワードは入学時の「帰省先郵便番号」です。初めてログインした時に、パスワードを必ず変更してく

ださい。また、利用後は、安全のため必ずログアウトしてください。

教員の場合は、職員証にある職員番号を両方に入れてください。

下の方に、「マイライブラリ」「私の本棚」の欄があります。

「マイライブラリ」をクリックすると、右の図（図3）のような画面になります。このページでは図書館からあなたへのお知らせや「新着資料の条件」を指定すると、条件に当てはまる新着資料が表示されます。また、「借用中の資料」では、現在借りている資料の返却期日等の確認ができます。

図1の画面で検索した本や資料について、検索結果の中で記録しておきたいものがあれば「本棚へ登録」をクリックすると、「私の本棚」へ登録されます。これらの記録は、「私の本棚」でいつでも見ることができます。また、メモなどを付けることもできます。

「検索」した本や資料をウェブ予約することもできます。予約した本や資料が借りられるようになると、図書館からメールでお知らせがきますので、「私の本棚」のお知らせで確認することができます。

ぜひ、図書館の自分の専用ページを活用してください。利用方法について不明な点があれば、図書館カウンターでお尋ねください。

（図3）マイライブラリ



### 3. ライティングセンターでレポート執筆のコツをつかもう

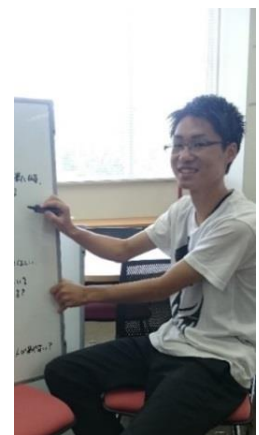
南キャンパス D24 教室と北キャンパス・ラーニングコモンズで、定期的にライティングセンター（ライティングコンシェルジュと呼んでいます）が開設されています。ライティングコンシェルと呼ばれる先輩学生スタッフが、あなたのレポート執筆について助言をします。講座に参加することも、個人的にチュートリアルを受けることもできます。ぜひ利用してみてください。

#### ●ライティングコンシエルの活動（国際文化学科4年 平松栄一郎）

学生スタッフが学生のレポート作成指導をする活動を、2年続けています。これまで学生たちからレポートに関する様々な相談を受けてきました。新入生は右も左も分からないままで相談にやってくることもあります。

学生スタッフ自身も、レポート作成についてどう説明したらわかりやすく伝わるか等、スタッフ同士互いに研鑽しあう日々です。スタッフが講師として学生に「レポートの書き方」や「書き始める前に」など、テーマを決めて講義をすることも行っています。学生たちが知らなかった新しいことを伝えられ、同時にスタッフたち自身の勉強にもなっています。

レポートの質が上がることは、学生の質や勉学の質の向上につながり、ゆくゆくは大学全体の質の底上げにつながるのではないかと感じさせられます。自ら学び考えレポートで表現



することを、今後もライティングコンシェルを通してお手伝いさせてもらいたいです。

### ●後輩たちの力になりたい (国際文化学研究科国際文化学専攻 2年 荒木麻耶)

元々文章を書くことは得意ではなく、大学に入って来たばかりの学生たち同様に、期末課題で出されるレポートには、どこから手を付ければいいのか分からないほどだった。その時、文書作成支援活動を利用し、これまでとは全く異なるレポートの書き方を身につけていった。

このことをきっかけに、今度は自分が後輩たちの力になりたい。困っている学生に何かできることはないかと思い、ライティングコンシェルジュで活動するようになった。ただ一方的に支援して教えるのではなく、相手にどのようにすればわかりやすく伝えることができるのかを考えるうちに、自然と知識の獲得や理解を深めるという学びにもつながっていったのである。

利用者の多くは、講座や個別指導を通して満足してくれている。一人でも多くの学生が文章作成の基礎を身につけ、研究の内容において、担当教員に指導され、討論できるようになってほしいと願っている。



## 4. 第7回大学図書館学生協働交流シンポジウムに参加しました

本学の図書館では、前期に21名の学生スタッフが学生ライブラリアンとして活動をしてくれました。後期も新たに募集した学生スタッフが夜間のカウンター補助、図書整理などをしてれています。こういった学生スタッフ制度は多くの大学図書館で取り入れられています。そのような学生スタッフたちが集まり、教職員と学生とが大学図書館をより良くするために研鑽し合う研修会が、毎年開催されています。

本学からは、今年初めて参加をしました。山口大学や梅光学院大学からの学生たちと一緒に、愛媛大学に行ってきました。

### ●文化創造学科3年 佐藤千秋

今回、大学図書館学生協働交流シンポジウムが平成29年9月5日(火)～6日(水)の期間、愛媛大学で開催されました。私はそのシンポジウムに参加させていただき、とても貴重な体験ができました。公共図書館は、普段から出入りしたり、講義の中でよく取り上げられたりすることがあるのですが、他の大学図書館は、興味はあるけれど、入ったことはなく、講義などでも詳しく取り上げることが少ないです。そこで、このお話しをいただいた時、他大学の方と交流できる、つまり、他大学の図書館の話がお聞きできると考え、是非参加したいと思いました。



私たちは、ランチミーティングからの途中参加でした。いくらかのテーブルに分かれ、他大学の方々  
と食事を共にしました。そのテーブルの半数は、ワークショップの同じ班の方々だったので、自分の意  
見を出しやすかったです。ワークショップでは各テーマに分かれ、話し合いました。私の班は「図書館  
の利用」がテーマでした。事前に「悩み」、「現状」、「できていること」、「未来」の各項目を数個ずつ考  
え、「悩み」もしくは「未来」から話し合う2通り通りの方法があったのですが、私たちは「未来」か  
らの方法をとりました。出しあった「未来」をいくらかグループ分けし、そのどのグループも「利用者  
の増加」につながることから、それを課題と設定しました。実現できる仮説を、効果や取り組みやすさ  
から、カウンター等に、相談受け付け中、という札を設置すると実現できるとしました。最終的に模造  
紙にまとめ、全体に発表しました。発表者と聞き手との距離が近く、意見を交換しやすい環境でした。  
質問の中には、話し合いの場では出なかったことを聞かれ、新たな発想をこのような形でも得られるのだ  
と知りました。また、「利用者を増やすことに、どのようなメリットがあるのか、増やしてどうするの  
か」という質問もありました。今では、図書館を利用することは多くの資料に触れる機会につながるた  
め、学業の充実や知識を得られるなど考えられるのですが、その時は、利用者が増えるとどうなるのか、  
という未来の未来を考えることができず、即座に回答できませんでした。これからは、なぜその  
未来を目指すのかも合わせて考えたいと思います。

ポスターセッションは、他大学図書館の活動紹介でした。図書館見学でも感じたことですが、どの大  
学図書館でも学生が活発に動いていました。例えば、鳥取大学では大学図書館のキャラクター、グッズ  
を作成したり、クリスマスに本の貸出（プレゼントのように包装して  
いるため、中身が見えない）をしたりなど、興味深かったです。多くの  
大学図書館が、Twitterを利用して情報発信を行い、オープンキャン  
パスでは開館していました。山口県立大学図書館には、学生ライブラ  
リアンはあるものの、イベントなどを企画することや広告を作成する  
こともありません。しかし、学生として図書館を利用しているからこ  
そ気づけることがあると思うので、本と人をつなぐことが図書館員  
の方々のように、図書館と学生をつなげられたらいいと考えました。



(全体での発表風景)

### ●文化創造学科3年 渋谷昌生

今回、山口県立大学からの代表2名のうち一人としてシンポジウムに参加しましたが、それには大き  
な理由が2つあります。

第一に、3年前期に行った図書館ライブラリアンの業務を通じて、他の大学図書館では学生がどのよ  
うな活動を行っているのか、またそのなかでどのような悩みや意識を持っているのかということに非常  
に興味を湧くようになっていたからです。

第二の理由として、大学図書館での学生協働に関して、ほとんど知識が無く、シンポジウムに参加し、  
ワークショップなどを通じて学生協働がどのようなものかを実際に知りたい、と感じたことが挙げられ  
ます。

シンポジウムでは、非常に多くの知識と刺激を得ました。参加されている学生や教職員の皆さんが非  
常に活動的かつエネルギーで、ワークショップの時間以外にもたくさんのお話をさせていただいた

ことは、有意義な経験だったと思います。

シンポジウムで他大学では学生協働が積極的に行われていること、団体やサークルも学生主体となって活動していることを知り非常に驚きました。

学内での読書会や、ビブリオバトル、図書館内での展示企画など、様々なイベントを考案し、それを実際に開催されていることがとても新鮮でしたし、面白いと感じました。県立大学でも、将来的には学生ライブラリアンがサークルや団体へ成長し、学生がより主体的に、業務だけでなくイベントの提案や実施もできるようになれば面白いし、大学図書館の利用促進や活性化にもつながるのではないかと思います。



(全体での発表風景)

ワークショップでは複数の班に分かれ、まずそれぞれの大学図書館で抱えている悩みを共有、その中から悩みを一つ選びだし、次にその原因を分析、解決するための具体的なアイデアを考えました。自分たちの班では図書館への意見・要望が少ないという悩みに関して、解決するためには具体的にどのようにアンケートなどの方法を工夫すればよいかを話し合いました。最終的な発表もやらせていただき、緊張しましたが良い経験をさせていただきました。率直にとっても楽しかったです。

シンポジウムでの経験や、得た知識を実際にどう活かせるかはまだわかりませんが、まずは図書館情報学研究室に所属する身として、学生協働を知ったことで学習の視野がシンプルに広がったように感じます。自分の大学での学びだけでなく、学生ライブラリアンとしてもより積極的な活動や、それだけでなく、新しいアイデアの提案やその実行などにつながればと思いました。

## 5. この秋、教員お勧めの1冊

昨年に続き、各学科2名の先生にお願いし、「教員がお勧めする一冊の本」を紹介していただきました。これらの本は、南キャンパス図書館と北キャンパス図書室に展示していますので、ぜひ手にとってみてください。

### ●国際文化学科 西田光一先生

サルトル全集第7巻『汚れた手、墓場なき死者』 ジャン・ポール・サルトル著

白井浩此司訳 人文書院 改訂版 1981年

私が大学に入ったころは携帯電話もインターネットも普及しておらず、それしか時間の使いようがなかったからとも言えるが、本は読んだ。当時は、一定の量を読みこなさないと入れない知的サークルがまだ大学の中に普通にあり、そこで、アジア的生産様式、構造主義と脱構築といったインテリメイト用語をかじってくる時が、最も素早く大人になれた気がした。そういうおめでたい盛りに登るべき高峰中の高峰に位置していた名前がサルトルだった。Jean-Paul Sartre は、あそこ知的に大人になろうとあがいていた青年たちの時間を、どれだけ奪い取っていったことか。サルトルには、哲学、政治評論、長編小説など膨大な著作があるが、どれも全く分からなかった。ただ例外的に、劇作は私にも分かった。

しかも、非常に興奮を覚えて読み進めた。「墓場なき死者」の不条理の世界から、今の学生も読書の迫力と大人の階段を見つけると思う。

●国際文化学科 吉永敦征先生

『「神」という謎』 上枝美典 世界思想社 2007年

とっつき辛いタイトルかもしれないし、さほど読みやすい本でないことも確かだろう。

本書は「神」の特徴とその実在性について、歴史的な議論の紹介し、現代的な哲学ツールを用いた分析を行うなど、幅広く神学のトピックを提供する内容となっている。

「神は万能だ」という定義に対し、「神は自分で持ち上げることができないものを作ることができる。とすると、神は持ち上げることができないものがあるということになる。なら神は万能ではないのではないか」という問いにも真面目な考察が行われている。好きな人にはたまらない内容だろう。

「自由」は現代において重要な価値を持っているが、実はこの「自由」にも神の存在が隠れている。それは...

続きが気になる方は手に取ってみて確認してみてください。

●文化創造学科 菱岡憲司先生

『本居宣長「うひ山ぶみ」』 白石良夫 講談社学術文庫 2009年

何でもよい、物事に真剣にとり組めば、志す道の遠大さを知る一方で、自分の能力の限界を感じ、やりきれない思いを抱くものだ。そんなとき、本居宣長が初学者のために著した『うひ山ぶみ』を読むと、また、次にすすもうという意欲がわいてくる。曰く、「詮ずるところ学問は、ただ年月長く倦まずおこたらずして、はげみつとむるぞ肝要にて、学びやうは、いかやうにてもよかるべく、さのみかかはるまじきこと也。いかほど学びかたよくても、怠りてつとめざれば功はなし」と。方法も才能もスタートの遅さも時間のなさも問題ではない、ただただ継続しさえすればモノになる——この実感のこもった励ましを胸に、次にすすもう。

●文化創造学科 吉岡一志先生

『江戸の妖怪革命』 香川雅信 河出書房新社 2005年

江戸時代には浮世絵や文学、歌舞伎など様々なメディアの中に妖怪があふれかえっていました。しかし、このことは当時の人々が「妖怪」なるものを無批判に信じ、恐怖の闇に呑み込まれていたことを指しません。むしろその反対です。「妖怪」は娯楽になった、つまり、今でいう『妖怪ウォッチ』のような存在になったと著者は指摘します。超自然的な存在から距離をとり、そのいかがわしさ、可愛さ、怖さを江戸の人々は楽しんでいたので。

妖怪をアカデミズムの俎上にあげ、そこから当時の人々の心性を描く本書は、一見くだらないように見えるものにも人々の心を解き明かす鍵が潜んでいること、またそれを研究するための思考法や研究手法を私たちに教えてくれます。

●社会福祉学科 横山順一先生

『障害をもつ子を産むということ 19人の体験』 野辺 明子・加部 一彦・横尾 京子 (編)  
中央法規 1999年

生まれたばかりのわが子に障害があると分かったとき、親はその現実をどう受けとめていくのか。19人の親達のリアルな体験談から、障害告知、治療、看護に至るまでの親へのケアのあり方について考えさせられます。

はじめ医療関係者向けに、障害をもつ子どもの親の心のケアを考えるために集められたこれらの体験談は、障害をもつ子どもが生まれるということは何も特別な問題ではなく、誰にも、どんな家庭にも起きうる問題であるという編者の思いから、一般の人々向けに出版されました。読んでいて少し辛くなることもあるかもしれませんが、子どもや子育て、障害児の養育のことについて向き合いたい方は、ぜひ読んでみてください。あわせて、同じシリーズの『障害をもつ子が育つということ 10家族の体験』(野辺 明子・加部 一彦・横尾 京子・藤井和子編、中央法規、2008年)もお勧めします。

●社会福祉学科 永瀬 開先生

『昔、言葉は思想であった－語源からみた現代－』 西部 邁 時事通信社 2009年

私たちが普段、何気なく使っている言葉の語源についてじっくりと探っていく一冊です。私たちの社会にまつわる様々な言葉の語源を丹念に探っていくと、その語源と今私たちが使っている言葉の意味との間に大きな乖離があることに驚かされます。さらに、この本を読み進めていくと、その言葉を使い続けてきた人間の『歴史の叢智』について、深く考えさせられます。

現代社会において、「言葉はコミュニケーションツールである。」といった言説を耳にすることもしばしばありますが、この本を通して、単なるコミュニケーションツールを超えた『言葉の思想』について味わってみてはいかがでしょうか？

●看護学科 太田友子先生

『あな』 谷川俊太郎 (作)・和田誠 (画) 福音館書店 1976年

対象年齢4歳から大人までということが1番のポイントかもしれません。

数年前に行われた研修で、自分自身の教育や研究について自己省察し、再構成する作業を重ねていく中で、私は「全体的に掘り下げすぎたのかもしれない」と自省していました。その時、指導教授から「こんな本があります。読んでみるといいかもしれません。」とアドバイスをいただきました。すぐに読もうと思っていたのですが、いつの間にか数年が経っていました……。ある時、この本を思い出すことになり、早速購入して読みました。言葉の少ない絵本ですが、『色んなことが考えられる本だなあ～。薦められた意味も納得!』と思えた本です。

文字にされた表現を理解・解釈する力も大切ですが、今は行間を読む・解釈する力も意識的に体得しないといけない時代なのではと思います。それぞれの人が想像を広げながら読んでいくには、ピッタリな本ではないかと思えます。



●看護学科 三谷明美先生

『ちいさなあなたへ someday』 アリスン・マギー著・ながかわちひろ訳 主婦の友社  
2008年 イラスト：ピーターレイノルズ

妊娠中は、自分の母親がどんな思いで妊娠期や育児期を過ごしていたかを自分自身の妊娠と重ね合わせ、あらためて母親への感謝の気持ちがわいてくることが多くあります。また、まだ見ぬわが子に対して、どんな子供に育てたいか、どんな母親になりたいかいろいろ想像を膨らませます。この絵本は、母親の出産後のわが子に対する愛おしさが湧き出るイラストから始まり、人生で経験する楽しさや辛さを通しての成長を母親の目線で感じたことが言葉と透き通るような優しいタッチのイラストで表現されています。この絵本の特徴は、子どもが成人し、老後を迎えて、母親自身が、この世にいない頃でさえも、その子の母親であることの幸せが描かれています。どんな場面で、どんな気持ちで母親が子どもの成長を見守ってきたか、そんなお母さんの普遍的な思いを垣間見ることができる1冊です。

●栄養学科 大野正博先生

『効かない健康食品 危ない自然・天然』 松永和紀 光文社 2017年

グルテンフリーに水素水、酵素ドリンク、オーガニック。ちまたには、健康食品や健康法と呼ばれるものがあふれています。しかし、その中で本当に効果ははっきりしているものはどのくらいあるのでしょうか？ 次から次へとダイエット法が流行しますが、そのうち本当に効果があるのはどれくらいなのでしょう？ 朝のテレビ番組「あさ〇〇」で、ある食品が健康に良い、あるいはダイエットによいという放送がされると、すぐにスーパーの棚が空になることがあるそうです。テレビで放送される内容は全て真実なのでしょう？ ネット上にも様々な情報があふれていますが、その真偽を判断するのは容易ではありません。

著者は科学ジャーナリストですが、一貫して科学の視点に立って真偽を判断することを主張しています。本や雑誌で「△△は発がん性があるので買ってはいけない」と市民の不安をあおり金儲けをしている人たちがいます。彼らの言葉に惑わされず、正しい判断をしてほしいと主張しています。この本は、世の中にあふれる情報の真偽を判断するための一助として、参考にしてほしい本です。

●栄養学科 加藤元士先生

『マンガでわかる！ マッキンゼー式ロジカルシンキング』 赤羽雄二 出宝島社 2015年

皆さんは、授業やサークル、課外活動そして友人の誕生日や旅行の計画まで、様々な場面で企画を考え実施することがありますよね。その際に「どのように考えたらいいの」、「考えたけどなんかパツとしない」、「私的にはとてもいいと思ったけど、みんなの反応がいまいち」と感じたことはありませんか。企画案を話した時には「なるほど」、「すごい」、「たしかに」、「そりゃそうだ」、実施した際には「すごくよかったよ」と言ってもらいたいですよね。この本は、企画を考えるために必要な物事を整理し、問題点を正確にとらえ、目的を達成するための最善策を導き出す思考方法が紹介されています。マンガ中心なので自然に読み進めることができますし、ステキな企画書が書けるきっかけになると思いますよ。

## 6. 図書館の上手な利用法：先輩たちに図書館の使い方を教えてもらおう！



図書館は、文献探しや自主学習の場として利用しています。Wi-Fi が繋がるので、パソコンを持ち込んでレポートを作成することもあります。3年生からは書庫に入って自由に文献が探せるため、とても助かります。司書さんとの交流の場としても、とても重宝しています。（ I さん ）

調べ物や、レポートを書くための資料を探すためによく利用します。そのまま図書館に設置してあるパソコンでレポートを作成することもあります。（ Y さん ）

本の価格に関係なく、どの本も手に取ることができるというのが、図書館の好きなおところです。

レポートなどの調べ物の時は仕方ありませんが、自分が好きで借りた本は気分が乗ったときに読むことにしています。もう良いなと思ったら読み始めて5分くらいでも本を閉じたりします。「返却期限が…」と言って無理やり読み終えようとするのはあまりしたくありません。そういう時は「また借りたら良いや」と思って返却します。そう思わせてくれるのが図書館の良いところですよ。何度返しても何度も借りられます。図書館は余裕を持って本を楽しむ喜びを私にくれます。（ F さん ）

## 授業の前に本を探そう

### 1.OPAC(蔵書検索)で検索



南キャンパス図書館のOPACから本館・北キャンパス図書室の蔵書検索ができます。資料が貸出中の場合は予約をつけられます。

### 2.所蔵情報を頼りに書架へ

OPACで所蔵場所と請求記号を確認して書架から資料を探します。資料の探し方がわからない時は職員までご相談ください。



### 3.カウンターで貸出手続き



借りる時は、資料と学生証を持ってカウンターまできてください。返却日を忘れないように「返却期限票」に日付印を押せば、貸出完了です！

## 空きコマを活用しよう

### 休憩時間を図書館で過ごしませんか？

#### 南キャンパス図書館 雑誌コーナー(2階)▶

学術雑誌や、スポーツ・ファッション・週刊誌等、幅広い種類の雑誌を所蔵しています。バックナンバーもあります。



#### ◀北キャンパス図書 室開架閲覧室

開架閲覧室は56席あり、広い机もあるので、グループでレポートを作成するときなどに最適です。



## 電子ジャーナルを活用しよう

電子ジャーナルとはWeb上で読むことができる電子化された雑誌のことです。本学では約 5000 タイトル購読しており、学習や研究にとっても便利です！

### 主な電子ジャーナル・データベース(学内のみ)

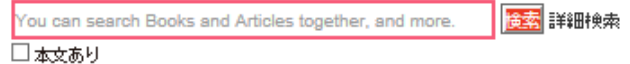
- ・ProQuestRL
- ・ジャパンナレッジ Lib
- ・JournalWeb
- ・メディカルオンライン

まず、大学ホームページから「図書館・センター」→「図書館」へ。画面中央に図4の検索ボックスがあります。ここでは複数のデータベースから論文や図書を検索できます。

(図4) 検索ボックス

#### 【学内の方】

●まずは下の検索窓を使って、複数のデータベースから論文・図書を探してみましょう！  
[ブラウザ: Internet Explorer ver.9~11, Firefox 推奨]



また、学内利用限定のデータベースを利用したい場合は、図書館ページ下側の「資料・情報検索」(図5)へ。クリックすると図6画面となります。

図5 資料・情報検索 (入り口)

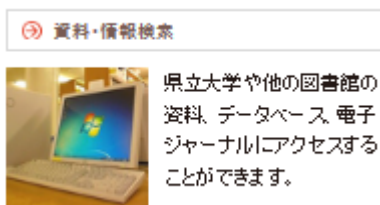


図6 資料・情報検索



ここで、左真ん中の「データベースや電子ジャーナルで探す」をクリックすると、「論文・記事」「電子ジャーナル」「事典・辞典」のジャンルでさらに詳しく調べることができます。

例えば、「論文・記事」の中にある「メディカルオンライン イーブックスライブラリー」では、主として看護系の電子書籍を読むことができます。また、面白いところでは「聞蔵Ⅱ」では、朝日新聞の縮刷版を見ることができますので、家族が生まれた当時の朝日新聞一面やテレビ欄を読むことができます。

「電子ジャーナル」にはさまざまコンテンツが用意されていますが、中でも「ProQuest RL」は、歴史、人文・社会科学、医学など多くの分野にまたがる何千ものリソースから収録された多数の論文にアクセスできる電子ジャーナルのサイトです。

すべて無料で利用できますので、ぜひ利用してください。利用の仕方がわからない場合は南キャンパス図書館カウンターならびに北キャンパス図書室カウンターにいる職員にお尋ねください。



## 編集後記

今号は読書の秋ということで、各学科の2名の教員の方々が合計10冊の図書を学生の皆さんへお勧めしています。ぜひ図書館で手に取り読んでみてください。今回は特に学生さんからの記事をいただき、たくさんの方々のご協力のもと『学術情報センターだより第4号』を発行することができました。本当にありがとうございました。

(K. M)



(第7回大学図書館学生協働交流シンポジウムポスターセッション会場)